

「電波の日」中国総合通信局長表彰

1 個人

たかはし ひでのぶ
高橋 秀暢 様

(一般社団法人広島県臨床工学技士会 会長)

平成29年9月に広島県医療電波利用推進協議会を設立するにあたり、さらに平成30年3月に同協議会を中国地域に拡大し、医療電波利用中国協議会を設立するにあたり、広島県臨床工学技士会会長の立場から関係機関に働きかけて頂くなど、ご協力いただきました。

また、協議会の設立後は、いずれも座長に就任され、協議会運営に中心的な役割を果たされた他、アンケート実施などにもご協力頂き、中国地域の医療機関における安全かつ便利な電波利用の推進に多大な貢献をされました。

2 団体

広島県大竹警察署 様

おおき すすむ
(代表:署長 大木 晋 様)

無線通信の重要性を深く認識され、不法無線局を排除するため、警察署独自の取締りを平成25年度から平成29年度の5年間に於いて15回実施されました。その結果、15件の不法無線局を摘発するなど、中国管内の警察署において最も多くの成果を上げ、他の捜査機関の模範となるとともに電波利用秩序の維持に多大な貢献をされました。

株式会社アクトシステムズ 様

くわだ あきら
(代表:代表取締役会長 桑田 昭 様)

平成17年から多年にわたり「中国電子タグ(RFID)利活用研究会」を主催し、毎年当局と共催して「電子タグ利活用研究フォーラム」を開催するなど、中国地域のニーズに即した電子タグの利活用方法の検討や普及啓発活動に取り組まれました。この研究会を立ち上げ、電子タグを導入した企業においては、商品情報や在庫情報の確認、商品の自動仕分けに活用し、業務の効率化や人員削減を実現するなど、電波の利活用の促進による地域課題の解決に寄与されました。また、平成24年度から中国情報通信懇談会の事務局として中国地域の情報化の推進に多大な貢献をされました。

株式会社山陰放送 様

さかぐち きっぺい
(代表:代表取締役社長 坂口 吉平 様)

平成28年にスタートしたラジオ番組において「SNSであなたとつながる新感覚ラジオ」をコンセプトにラジオとSNSを連動させた放送を実施し、地域に捉われず、アナウンサーとリスナーが双方向でやり取りが可能な新感覚のラジオ放送を行いました。

また、SNSを活用することで、放送時間の枠を超えて、予習編、復習編として番組関連情報を発信するなどの創意工夫を少人数のスタッフで積み重ねられました。その活動は、民放連や他社番組からも取材や紹介を受けるなど注目をあびており、ラジオ放送の新たな可能性を広げ放送の発展に多大な貢献をされました。

日本放送協会広島放送局 様
(代表:局長 ^{ひめの} 姫野 ^{ひろし} 浩 様)

株式会社中国放送 様
(代表:代表取締役社長 ^{おかはた} 岡 昌 ^{てつや} 鉄也 様)

広島テレビ放送株式会社 様
(代表:代表取締役社長 ^{さの} 佐野 ^{よしあき} 譲 顯 様)

株式会社広島ホームテレビ 様
(代表:代表取締役社長 ^{いとう} 伊藤 ^{ひろあき} 裕章 様)

株式会社テレビ新広島 様
(代表:代表取締役社長 ^{みのわ} 箕輪 ^{ゆきと} 幸人 様)

被爆地ヒロシマの放送局として、被爆70年となる平成27年から毎年8月に5局が昭和44年から平成29年にかけて制作した核・平和関連番組の上映会を共同で開催し、平成29年は広島平和記念資料館で開催された上映会において、17番組を上映されました。

また、平成28年及び29年の広島東洋カープの優勝パレードにおいては、各局が役割分担して共同で撮影した映像等を用いて、生中継を行い、地域とともに歩む放送局として地域情報の発信に多大な貢献をされました。

山口県電波適正利用推進員協議会 様
(代表:会長 ^{かわむら} 河村 ^{しげお} 茂雄 様)

電波の適正な利用を推進するため、長年にわたり山口県内での周知啓発活動を続け、平成29年度は、7回の電波教室を開催するなど、積極的に取り組まれました。内容面でも、関係者と連携して漁業用海岸局及び山口県の漁業調査船等の施設見学を実施するなど、特色ある電波教室を開催し、電波の適正な利用推進に多大な貢献をされました。